

アース

2008(平成20)年1月27日鑑賞(OS シネマズミント神戸)

★★★



監督＝アラスデア・フォザーギル／マーク・リンフィールド（ギャガ・コミュニケーションズ配給／2007年ドイツ、イギリス合作映画／98分）

……『アース』の主人公は、46億歳となった地球そのもの。北極から赤道を
通って南極まで、広範囲で撮影されたホッキョクグマ、アフリカ象、ザトウ
クジラ等の動物たちの生態と地球各地の風景は信じられないほど美しい。大
切なのは、この美しい「地球」を守っていくため、地球温暖化防止というメ
ッセージをしっかりと受けとめること。この映画を観たその日から、そのため
の何らかの行動をとらなければ……。

アラスデア・フォザーギル監督の執念に拍手！

ドキュメンタリー映画にもいろいろあるが、海洋をテーマとした美しい映像を集め、
これを ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の美しい音楽と融合させた91分のドク
ュメンタリー映画『ディープ・ブルー（DEEP BLUE）』（03年）は、ドキュメンタリ
ーの新たなジャンルを切り開いたもの。自然派ドキュメンタリー映画ともいべきそ
の91分の映像が、多くの人々にとって「至福の時間」となったことはまちがいない
（『シネマルーム6』96頁参照）。

そのアラスデア・フォザーギル監督が次にマーク・リンフィールド監督と共に挑ん
だのは、地球そのもの。製作5年、撮影日数のべ2000日、ロケ地全世界200カ所以上、
また、超ハイスピードカメラなどの最新機材を駆使して生まれた奇跡的な映像の数々
に多くの人は度肝を抜かれるはずだ。当然私もそんな映像にビックリするとともに、
ただうっとり。

まずは、そんなアラスデア・フォザーギル監督の執念に拍手！

『皇帝ペンギン』も良かったが

『ディープ・ブルー』に続いて私が観た自然派ドキュメンタリー映画が『皇帝ペンギン』(05年)。これは、皇帝ペンギンの命懸けの大行進に着目したもの。アル・ゴア元アメリカ合衆国副大統領が第79回アカデミー賞長編ドキュメンタリー賞・歌曲賞を受賞した『不都合な真実』(06年)ほどの問題提起性はなかったものの、やんわりと地球温暖化と環境問題に警鐘を鳴らしたい映画だった(『シネマルーム8』264頁参照)。

しかし、今回の『アース』の方が視点が広い分だけ一層面白いし、問題提起性も深い。そういう意味では、この『アース』は自然派ドキュメンタリー映画の集大成……。

アースの旅は、北極から赤道そして南極まで

5年間にわたる『アース』の撮影は26カ国、200カ所以上に及んだとのこと、信じられないような美しい風景が大きなスクリーン上で次々と展開されていく。冒頭は北極だが、『アース』製作チームは世界で初めて、ホッキョクグマの生息地への立ち入りをノルウェー政府より許可されたとのこと。つまり、1980年の研究調査が行われて以来、25年間このホッキョクグマの聖地に足を踏み入れた人間はいないとのことだ。

アースの旅はさらに、①カナダのノースウェスト・テリトリーにおけるオオカミによるカリブー狩りや②アフリカのチョベ国立公園におけるライオンの群れによるアフリカ象狩り、そして③南アメリカのベネズエラにおける世界一高低差のある滝などと続き、美しい風景が次々と展開されていく。その美しさはとてもここで評論できるものではないので、あなた自身の目で……。

主役はホッキョクグマ、アフリカ象、ザトウクジラたち……

『アース』に登場する動物も、ホッキョクグマ、アフリカ象、ザトウクジラからライオン、チーター、ホオジロザメそしてアムール豹、カタカケフウチョウ等多岐にわたるが、よくぞこんな瞬間を撮影できたものと驚くシーンばかり。とりわけチーターがある動物を襲うシーンの迫力などはすごいもの。

私も10回にのぼる中国旅行や『シネマルーム』の表紙撮影のためデジカメの技術に

興味を持ち、少しずつ前進しているという自負心をもっているが、こんな映画を観ているとプロチームの力を結集した最高技術のすごさにとにかくビックリ！

この映画のメッセージ性は……？

この映画の主演は、太陽系第三惑星で、46億歳となる地球そのもの。映画の冒頭、渡辺謙のナレーションは、地球は50万年前の巨大な隕石との衝突によって、惑星そのものを23.5度も傾けてしまったことを報告する。ところが、「この衝突事故は大惨事となるどころか、我々が知っている『生命の星・地球』の誕生に重大な役割を果たすこととなった」ことを感動的に述べる。つまり、この傾斜がなければ、今のような驚くほど多様な地形や四季の移ろいもなかったし、生命が生息するための完璧な条件も揃わなかったということだ。それまでボンヤリとした知識だったものが、「なるほどそういうことなのか」と納得。

そんな46億歳の地球を主人公としたこの映画は、「アース」の美しさと動物たちの生態を観客に見せつけるが、同時にそんな地球についての明確なメッセージを伝えている。プレスシートにも明確に書かれているメッセージは次の3つ。すなわち、

①もし、現在のスピードで世界の気温が上昇し続ければ、野生のホッキョクグマは2030年までに絶滅してしまうかもしれない、

②「水の供給」という気候システムを崩壊させている地球温暖化は、いよいよ予測できない状況になってきている、

③海水温の上昇により、ザトウクジラなどの多くの海洋生物がエサとしているプランクトンが死滅し始めている。しかし、まだ手遅れではない。未来を変えていくことはできる。あなたに何ができるのか、それを見つけるのだ。

私たちはこの映画を観て「アース」の美しさに感動するだけではなく、このメッセージをしっかり受けとめ、何らかの行動を起こさなければ……。

2008(平成20)年2月21日記